

山口大学

目 次

I	選択評価結果	2-(2)-3
II	選択評価事項の評価	2-(2)-4
	選択評価事項B 地域貢献活動の状況	2-(2)-4
<参 考>		2-(2)-11
i	現況及び特徴（対象大学から提出された自己評価書から転載）	2-(2)-13
ii	目的（対象大学から提出された自己評価書から転載）	2-(2)-14
iii	選択評価事項に係る目的（対象大学から提出された自己評価書から転載）	2-(2)-18
iv	自己評価書等	2-(2)-20

I 選択評価結果

山口大学は、「選択評価事項B 地域貢献活動の状況」において、目的の達成状況が良好である。

選択評価事項Bにおける主な優れた点として、次のことが挙げられる。

- 公共団体等 18 の組織と包括的連携・協力協定を締結し、地域の発展に寄与している。山口県とは、地方創生に関する包括連携協定を締結し、山口市とは、相互の人事交流を行い緻密な連携活動体制を構築している。
- 地元金融機関及び県内企業出資のクラウドファンディング運営会社の創設に協力し、イノベーション人材育成プログラムの提供、創業者教育を推進し、地域の活性化に取り組んでいる。
- 知的財産教育を活かし、地域における生涯教育活動の一環として、また、知的財産教育の普及による地域経済発展を目的として、地域の教育機関への知財教育支援や、行政機関、企業等向けの知財セミナーを実施している。

選択評価事項Bにおける主な更なる向上が期待される点として、次のことが挙げられる。

- 平成 27 年度に、文部科学省COC+に採択され、若者の県外流出による人口減少の加速化という課題に対し、地方公共団体及び地元企業と連携し、大学のリソースを活用して産業振興、雇用創出支援を図るとともに、地域社会が求める人材を育成する教育プログラムを構築、実践することによって、事業期間の5年間で高等教育機関の卒業生の県内就職率 10%以上の向上を目指している。

II 選択評価事項の評価

選択評価事項B 地域貢献活動の状況

B-1 大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

【評価結果】

目的の達成状況が良好である。

(評価結果の根拠・理由)

B-1-① 大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

地域貢献活動の目的を、大学憲章の基本理念に基づき策定されている「明日の山口大学ビジョン」に次のように定めている。

「山口大学は、資質の高い教員や優れた医療人材など、様々な社会で活躍できる人材の養成・育成に加え、研究における国際連携の強化、先進医療の地域への提供、生涯学習及び産学連携など、教育、研究、医療、文化及び経済の各方面から、地域社会や国際社会との連携を軸に据えた活動を発展させていきます。

本学は、地域の基幹総合大学として、また、アジア・太平洋圏において独自の特徴をもつ大学に進化することにより、教育・研究の成果を広く社会に提供するとともに、地域社会や国際社会との連携をかたちにし、社会の発展に寄与します。」

この目的を達成するために、第2期中期計画には社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置として次のように定めている。

「・地域の自治体、市民団体、博物館、企業、公私立大学等との連携体制を強化し、学内外の人材交流の機会を拡大させるとともに、多様な講座事業、連携協働事業、地域活性化支援事業を推進する。

・地域発イノベーション創出に資する科学技術イノベーション人材の育成に取り組むとともに、地域の様々なセクターで機能する連携システムを活用して、地域の文化・経済活動の維持・発展や地域イノベーションを指向する総合的な地域活動を行い、多様な成果を生み出す。

・教員免許状更新講習に係るニーズに応えるため、学内での教員免許状更新講習の実施体制・方法を確立するとともに、他大学や地方自治体と連携した取り組みを推進する。

・大学で生産される学術成果（論文等）を電子的に保存し、学内外へ情報発信する学術機関リポジトリ事業を継続的に展開するとともに、地域の大学との連携による共同リポジトリ事業を進める。

・大学情報機構（図書館、メディア基盤センター及び埋蔵文化財資料館）は、地域の教育関連施設との連携を強化し、ICTを活用した文化的な地域貢献活動の拡充を図るとともに、大学が所蔵する貴重な学術資産の系統的な保存及び利活用を図る事業を推進する。」

これらの目標や計画は、学内主要会議や大学要覧等を通じて教職員へ周知するとともに、業務実績報告書と国立大学法人評価委員会の評価結果とを併せて、ウェブサイトにおいて公表している。

これらのことから、計画や具体的方針が定められており、適切に公表・周知されていると判断する。

B-1-② 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

地域貢献活動は全学的に中期計画等に基づき、それぞれの分野において行われている。

主なものは次のとおりである。

I 地域の生涯教育及び文化活動への貢献

I-1 地域における生涯教育活動の推進

公開講座、開放授業及び出前講義を、主要な社会貢献活動として位置付け、積極的に事業を推進している。

公開講座は、地域社会の知的啓発に資することを目的とし、①知的好奇心に応える「専門教養講座」、②現代的課題に応える「知識・技術習得講座」、③地域振興の課題に応える「フィールド学習（現地体験型講座）」の3つの方式で行っている。

開放授業は、正規授業を一般市民に開放し、受講後修了証書を授与している。

出前講義は、生徒たちの高度な学習への意欲を引き出し、大学への関心を高めることを目的として、多様な講座を提供している。

このほかにも、各学部等の主催により、多様な講演会、大規模災害への防災教育、特定秘密保護法の理解、東アジアの格差問題への警鐘及び時間学の紹介等のシンポジウムを開催し、市民に提供している。

I-2 地域の初等中等教育の質の向上

県内の11大学・短期大学、山口県教育委員会等と連携・協力体制を構築し、小学校から高等学校の各教科に対応した幅広い内容の講習を開設し、「教員免許状更新講習」を実施している。

また、現職の高等学校・中学校教員を対象として「サイエンス・リーダーズ・キャンプ」（平成26年度開催1回、参加者20人）や高校生対象の「オープンセミナー」（平成26年度開催1回、参加者23人）を開催し、高等学校との接続授業を提供している。小中高生に科学技術の楽しさを伝える「科学技術維新プロジェクト」（平成26年度開催101回、参加者21,054人）や「ひらめき☆ときめきサイエンス」（平成25年度開催1回、参加者20人）等を推進し、「サイエンスワールド」（平成26年度開催1回、参加者1,034人）では、「サイエンスセッションU-18」を企画し、中高生による科学研究発表会を行っている。また、科学オリンピックの強化合宿として、県内の高校生及び教員を対象として「やまぐちサイエンス・キャンプ」（平成25年度開催1回、参加者47人）を実施している。

I-3 地域の大学と連携した取組

「大学コンソーシアムやまぐち」は、県内の高等教育全体の質的向上と地域へ貢献することを目的に平成18年度に設置され、県内12大学が加盟し、当該大学に事務局を置き、積極的に事業を推進している。県内大学と連携した「山口県大学ML（Museum・Library）連携事業」、県内全留学生を対象とした「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」や各種研修やセミナー等を実施している。平成24年度に「大災害時代における大学の果たす役割」をテーマにシンポジウムを開催し、平成25年度に事業継続計画（BCP）の実際と地域の地震環境について学ぶ、「BCP作成研修」を行っている。平成26年度には、FD・SD講演会「障害者差別解消法施行に向け、大学としての対応を考える」及びSDセミナー2014「大学職員の企画力が大学を変える」を開催している。

I-4 学術資産や情報通信技術を活用した情報発信

図書館は、入館・貸出及びウェブ蔵書目録検索等の一般市民向けサービス提供とともに、学術機関リポジトリ「YUNOCA」により学術成果論文等約23,000件を公開している。埋蔵文化財資料館は、学内発掘調査及び考古資料を活用した企画展を開催している。また、県内大学・短期大学・高等専門学校等の学術成果論文等を保存・公開する大学共同リポジトリ「維新」（約30,000件収録）及び県内各自治体等の埋蔵文化財発掘調査報告書を蓄積発信する「山口県遺跡資料リポジトリ」の管理運用支援等、地域への、また、地域からの知的情報発信に積極的に参画している。

「学術資産継承事業」の成果展の開催や貴重資料のウェブサイト上での公開等、文化普及活動も推進し

ている。さらに、県内大学博物館・図書館の学術資産・成果を活用した連携テーマ展「山口県大学ML連携特別展」を開催しており、平成26年度は「発見」をテーマに11大学15館が参加している。平成27年度に創基200周年を迎えるに当たり、市民も参加して、ノーベル賞受賞者を招いた学術講演会、ホームカミングデー、フォトコンテストを開催している。

I-5 学生等による地域貢献活動

全学的な学生による地域貢献活動として、学生の自主的・創造的企画を大学が支援する「おもしろプロジェクト」（平成26年度参加学生数176人）では、市民への心肺蘇生法普及活動をはじめ、地域の環境美化のプロジェクト等が行われている。また、学生の自主活動の支援を行う「学生自主活動ルーム」を通じて、学生は、「日本ジャンボリー」や「下関海響マラソン」等のボランティア活動（平成26年度参加学生数446人）に参加している。

各部局における取組として、教育学部では、教職志望学生による「学力向上等支援員派遣」及び「特別支援教育ボランティア」等による地域協働体験事業、経済学部でのゼミ活動を通じた地域課題解決への貢献を行っている。

II 地域行政及び産業への貢献

II-1 地方自治体等との包括連携協定

法人化後、キャンパスのある宇部市及び山口市をはじめ、美祢市、周防大島町等の地方自治体のほか、各種公共団体や企業等と包括連携協定を結び、平成26年度には、学長が県知事をはじめ、13市6町のすべての首長との懇談を行っている。協定を結んでいる市町の審議会へは、大学から多くの委員を派遣し、教育、研究、医療・福祉、文化、経済、防災・安全、地域振興等の幅広い分野で連携・協力している。特に、県とは、連携推進協議会（平成14年4月設置）を設置し、平成27年2月に地方創生に関する包括連携協定を締結している。山口市とは、平成26年度から人事交流を開始し、山口市から地域連携コーディネーターを迎え、大学から山口市地域振興部に職員を派遣し、また、新たに連絡協議会を設置して、連携体制を強化している。

平成26年8月現在の審議会委員等の就任は、山口県関係271人、山口市関係30人、宇部市関係48人、美祢市関係44人、周防大島町関係10人である。

II-2 産学公連携による地域貢献

大学研究推進機構に各種センターを設置し、企業、自治体と連携した地域発イノベーション創出に向けた事業を推進している。産学公連携センターでは、展示会・新技術説明会等でのシーズ情報の発信、産学連携コーディネータによる技術相談、やまぐち事業化支援・連携コーディネート連絡会議の活動等により、共同研究及び受託研究のマッチングを行っている。知的財産センターでは、知的財産教育の普及による地域経済の発展を目的に、学外教育機関への教育支援（平成21～25年度の5年間で132校15,790人）や、企業等向けセミナー等（平成21～25年度の5年間で52か所3,520人）を開催している。総合科学実験センターでは、機器分析実験施設と遺伝子実験施設を開放し、平成24年度から「次世代シーケンサを用いた遺伝子受託解析」を開始している。

また、平成23年度には、地域の強みである省エネ・環境・マテリアル技術分野の産官学共同研究推進のため、科学技術振興機構により設備が整備され、「やまぐちイノベーション創出推進拠点」として、企業等に研究機器を提供している。県・企業・大学が連携し、医療関連産業の育成・集積を目指す「やまぐち医療関連成長戦略推進会議」に参画するとともに、事業化に結びつく先導的研究を支援する「やまぐち産業戦略研究開発等補助金」を活用し、企業と連携して、がん治療の高度化、再生医療の推進、蓄電池に関連する研究開発等を推進している。

企業との包括的連携協定に基づき、県内発祥の企業からは平成 26 年度より主任研究員を在籍のまま教授に招へいし、同じく化学メーカーからは講師を招へいして、学部学生に「環境ビジネス論」、大学院学生に「総合理工学特別講義」の講義を実施している。平成 26 年より、民間企業及び民間研究所と植物工場に係る総合的な共同研究開発を実施している。また、平成 27 年には、銀行及び民間研究所と協定を締結した上で、地元金融機関及び県内企業の出資によるクラウドファンディング運営会社の創設に協力し、大学における実践的なイノベーション人材育成プログラムと併せて、創業者教育を推進する体制を整備している。

II-3 地域との交流活動

平成 18～24 年度に、地域の行政や企業等との意見交換の場として、山口県の 7 地域を 2 巡し「地域と山口大学との交流会」を開催している。1 巡目は、大学の概要紹介などの広報活動を中心に、2 巡目は、企業及び商工会議所からの提言を受け、2 巡目後半には、グループ懇談が行われている。

平成 23 年度には、文部科学省との共催で「熟議 in やまぐち」を実施し、当日は、11 のグループに分かれ、最先端研究からまちづくりまでのテーマで、討議を行っている。また、平成 24 年度には、山口市、阿武町及び周防大島町の県内 3 か所で、「熟議キャラバン 2012」を開催している。

これらの交流会及び熟議の成果を踏まえて、平成 26 年度から「地域創生キャラバン in やまぐち」を開催している。第 1 回目は「大学と地域がこれからできること」及び「10 年後の未来のやまぐち」についての意見発表会で、約 60 人が参加している。第 2 回目は、「地域の雇用創出、地元定着率の向上」に特化し、山口県、山口市、宇部市の行政職員各 4 人と大学教職員 8 人の計 20 人よっての討議が行われている。

III 高度な地域医療等の推進

医学部附属病院は、病床数 736 床、28 診療科と 23 の診療部を擁する県内唯一の特定機能病院として機能している。このほかに、教育学研究科臨床心理センターでは、子どもの不登校、発達上の問題や職場での対人関係の悩み等を臨床心理学の立場から支援し、動物医療センターでは、西日本における紹介専門の中核病院として、高度獣医療の推進や地域の獣医師を対象とした「総合臨床セミナー」等を開催している。

これらのことから、計画に基づいた活動が適切に実施されていると判断する。

B-1-③ 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

地域貢献活動に係る具体的実績・成果及び参加者の満足度の主なものは次のとおりである。

I 地域の生涯教育及び文化活動への貢献

生涯教育活動に係る平成 22～26 年度の平均参加者数は、公開講座 594 人、開放授業 90 人、また、出前講義では 48 人の講師を派遣しており、公開講座の 6 割が、約 80%を超える充足率（受講者数／定員）を示している。平成 26 年度の「公開講座の満足度」は、「ある程度」以上満足が 95%、同じく「講師の満足度」では 97%であり、講座及び講師に対する満足度は極めて高く、受講生のうち 58%が複数回受講している。

教員免許状更新講習の受講者数は、5 年間で 15,000 人を超えている。平成 26 年度は、「講習の内容・方法」、「最新の知識・技術の修得成果」及び「講習の運営面」の評価項目の全体平均で、必修領域 95%及び選択領域 97%の人が高い満足度を示し、高い評価となっている。

「山口県大学ML連携特別展」は、新たに 2 大学 3 館が参加し、見学者は 1,500 人に上り、FD・SD 講演会の平成 26 年度の満足度は、「良かった」以上の回答が 87%を占めている。

また、一般市民に開放している図書館は、平成 26 年度に約 14,000 人の学外利用者があり、貸出冊数は約 3,000 冊である。

II 地域行政及び産業への貢献

共同研究及び受託研究の実績では、受入件数が、平成 23 年度以降年間 300 件以上で推移し、受入金額は、平成 22 年度に比して平成 26 年度は 220,000 千円増加している。

III 高度な地域医療等の推進

動物医療センターでは、高度獣医療を推進し、診療実績は年間約 8,000 件に達している。

これらのことから、活動の成果が上がっていると判断する。

B-1-④ 改善のための取組が行われているか。

地域貢献のための実施体制として、学長を本部長とし、副学長を構成員とする地域未来創生戦略本部を置いている。また、国際・地域連携担当の副学長をセンター長とする地域未来創生センターを設置し、センター主事及び地域連携コーディネーターを配置している。センターには地域未来創生戦略会議を置き、活動方針に沿って事業を推進するとともに、学内の地域貢献活動の情報を集約し、アンケート等の結果を踏まえ、改善に取り組んでいる。また、各年度の地域貢献活動の状況と自己点検・評価の結果については、「山口大学活動白書」に掲載し、ウェブページで公表している。

実施体制は、社会のニーズに対応して、その目的を生涯学習の地域への提供から広く地域貢献活動の実施、さらには地域社会の創生に資する活動の実施へと広げ、それに伴って組織改編を進めている。これらの組織再編に当たっては、大学の地域貢献活動に係る現状と課題についての総括を「地域連携推進センターの現状と課題～地域未来創生センターの始動に向けて～平成 27 年 3 月 9 日」で行い、その結果として地方創生アドバイザー（COC コーディネータ、客員教授）を新たに配置し、将来構想に取り組んでいる。

具体的取組の改善例としては、「地域と山口大学との交流会」が、「熟議 in やまぐち」や「熟議キャラバン 2012」を通して収集した意見・要望に基づき、自治体、企業、NPO、大学等が対話し、地域の課題を検討する場としての「地域創生キャラバン in やまぐち」の開催へと発展したことが挙げられる。また、公開講座等の受講者間の交流の機会として、「受講生の集い」を開催し、受講生の生の声を直接聴取している。また、アンケート集計結果から受講生のニーズを把握し、企画募集の際に教職員へ周知して次企画に反映させることにより、複数回の受講生増への実績につながっている。

さらに、平成 27 年度に、文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択されたことを契機に、若者の県外流出による人口減少の加速化という課題に対し、地方公共団体及び地元企業と連携し、大学のリソースを活用して産業振興、雇用創出支援を図るとともに、地域社会が求める人材を育成する教育プログラムを構築、実践することによって、事業期間の 5 年間で高等教育機関の卒業生の県内就職率 10%以上の向上を目指している。

これらのことから、改善のための取組が行われていると判断する。

以上の内容を総合し、「目的の達成状況が良好である。」と判断する。

【優れた点】

- 公共団体等の計 18 の組織と包括的連携・協力協定を締結し、地域の発展に寄与している。山口県とは、地方創生に関する包括連携協定を締結し、山口市とは、相互の人事交流を行い緻密な連携活動体制を構築している。
- 地元金融機関及び県内企業出資のクラウドファンディング運営会社の創設に協力し、イノベーション

ン人材育成プログラムの提供、創業者教育を推進し、地域の活性化に取り組んでいる。

- 知的財産教育を活かし、地域における生涯教育活動の一環として、また、知的財産教育の普及による地域経済発展を目的として、地域の教育機関への知財教育支援や、行政機関、企業等向けの知財セミナーを実施している。

【更なる向上が期待される点】

- 平成 27 年度に、文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択され、若者の県外流出による人口減少の加速化という課題に対し、地方公共団体及び地元企業と連携し、大学のリソースを活用して産業振興、雇用創出支援を図るとともに、地域社会が求める人材を育成する教育プログラムを構築、実践することによって、事業期間の 5 年間で高等教育機関の卒業生の県内就職率 10%以上の向上を目指している。

<参 考>

i 現況及び特徴（対象大学から提出された自己評価書から転載）

1 現況

- (1) **大学名** 山口大学
- (2) **所在地** 山口県山口市（吉田キャンパス）
山口県宇部市（小串, 常盤キャンパス）
- (3) **学部等の構成**
 学 部：人文学部，教育学部，経済学部，理学部，医学部，工学部，農学部，共同獣医学部，国際総合科学部
 研究科：人文科学研究科，教育学研究科，経済学研究科，医学系研究科，理工学研究科，農学研究科，東アジア研究科，技術経営研究科，連合獣医学研究科
- 関連施設：大学教育機構（大学教育センター，アドミッションセンター，学生支援センター，保健管理センター，留学生センター），大学研究推進機構（産学公連携センター，知的財産センター，総合科学実験センター，研究推進戦略部，先進科学・イノベーション研究センター），大学情報機構（図書館，メディア基盤センター，埋蔵文化財資料館），時間学研究所，大学評価室，地域未来創生センター
- (4) **学生数及び教員数（平成27年5月1日現在）**
 学生数：学部 8,727人，大学院 1,587人
 教員数：911人，助手数：7人

2 特徴

本学は、3つのキャンパスからなり、本州西端の山口県の県庁所在地である山口市（人口約19万人）の吉田キャンパスと瀬戸内海沿岸地域で有数の工業地帯である宇部市（人口約17万人）の小串キャンパス及び常盤キャンパスに9学部9研究科を設置している。2015（平成27）年に本学の前身「山口講堂」の創設（1815（文化12）年）から200周年の節目を迎え、歴史と伝統を有する由緒ある地域の基幹総合大学として、さらなる教育・研究の発展・充実を目指しつつ、地域に根ざした社会連携を進め、アジア・太平洋圏において独自の特徴を持つ大学へと進化を続けている。

このような地理的条件と歴史的背景の下に、明治維新発祥の地に根付く「挑戦と変革の精神」を受け継ぎ、「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の創造、共同・共育・共有精神の涵養及び公正・平等・友愛の尊重を基本理念として、地域社会や国際社会に貢献する人間力とチャレンジ精神を持つ人材を育成・輩出している。

学士課程では、幅広いリベラルアーツと世界に目を向けた協調と融和の人間力及び自主独立の精神を

涵養する教育を行っている。平成25年度から全学部の1年生に共通教育科目30単位を必修とするカリキュラムを実施しており、全国の大学に先駆けて知的財産教育科目を必修化している。平成27年度には、9つ目の学部として、国際的な視野での問題解決能力を持ち、国内外の様々な分野で活躍する人材を育成する国際総合科学部を設置している。また、大学院課程では、研究活動を通して、学士課程で涵養された精神と見識をより深化させ、それぞれの領域において国際社会や地域社会に広く貢献する人材を育成する教育を行っている。

本学の特徴的な教育研究活動としては、人文学部・人文科学研究科の異文化交流・研究、東アジア研究や山口県の歴史と文化を学問的に解明する「やまぐち学」の実施、教育学部・教育学研究科の「ちやぶ台方式」による教育現場、大学教員及び学生の協働型教職研修の実施、経済学部のTOEICを活用した英語教育や公認会計士・税理士の育成を目的とした教育の実施、理学部の電波望遠鏡を用いた宇宙電波観測や生物共生と機能獲得に関する研究の実施、医学部・医学系研究科の国際性のある研究マインドを持った医師・研究者の育成を目的とした取組の実施、工学部・理工学研究科の東南アジア・東アジアで活躍する技術系グローバル人材の育成を目的とした取組の実施、農学部・農学研究科の産学公が連携した新しい農産物の栽培技術の開発や中高温機能性微生物を利用した世界水準の教育研究の実施、共同獣医学部・連合獣医学研究科の大学間の密接な連携による国際水準の獣医学に関する教育研究の実施などが挙げられる。なお、技術経営研究科は、西日本唯一の技術経営（MOT）分野の専門職大学院であり、西日本地域の技術経営者の養成に重要な役割を果たすとともに、東アジア・東南アジアにおける技術経営者の養成にも貢献している。特に、東アジア研究科は、東アジアに関する人文科学、教育学、経済学等の幅広い人文社会科学の教育研究分野で構成しており、本学の地理的環境、研究の蓄積及び国際交流の経験に基づいて、東アジアを深く理解し敬愛する指導の高度専門職業人を養成することを目的とした国内でも数少ない研究科である。

さらに、時間学研究所は、多くの学問分野の連携により時間に関する研究を総合的に行い、その成果を社会に還元することを目的として設置され、文理融合による新たな学際分野を研究する世界的にも類を見ない研究所である。

これらの特徴的な教育研究活動を、教育、学生、留学生交流等を総合的に支援する大学教育機構、研究基盤・研究環境の整備、研究支援等を行う大学研究推進機構、大学情報及び情報基盤を総合的に整備する大学情報機構等の全学教育研究施設をはじめ、地域未来創生センター、各学部の附属教育研究施設等が支えている。

ii 目的（対象大学から提出された自己評価書から転載）

1 本学の基本理念・目的

学則において、本学の理念及び目的を次のように定めている。

【本学の理念及び目的】

本学は、「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念に、地域の基幹総合大学及び世界に開かれた教育研究機関として、たゆまぬ研究及び社会活動並びにそれらの成果に立脚した教育を実践し、地域に生き、世界に羽ばたく人材を育成することを目的とする。

大学院学則において、大学院の目的を次のように定めている。

【大学院の目的】

本大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

また、「山口大学憲章」を掲げ、学生と教職員が一体となって、理念の共有と目標の実現を目指している。「山口大学憲章」において、基本理念及び教育・研究の目標を次のように定めている。

【基本理念】

(1) 「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の創造

私たち山口大学は、21世紀の多様な課題を「発見し・はぐくみ・かたちにする」、豊かな「知の広場」を創り出します。

私たち山口大学は、この「知の広場」において、自らの役割と実績とを不断に評価しつつ英知の創造をめざします。

(2) 共同・共育・共有精神の涵養

私たち山口大学は、共に力を合わせ、共に育み合い、共に喜びを分かち合います。この共同・共育・共有の精神を“山大スピリット”として涵養します。

(3) 公正・平等・友愛の尊重

私たち山口大学は、“山大スピリット”による他者への配慮と自らを律する倫理観のもとに、あらゆる偏見と差別を排し、公正と平等と友愛の精神を尊重します。

【教育の目標】

(1) 専門性と社会性の育成

私たち山口大学は、地域の基幹総合大学として、各学部・研究科の特性を活かし、個性あふれる専門性と社会性に富んだ人材を育みます。

(2) 自己啓発・自己研鑽・自己管理の徹底

私たち山口大学は、自己啓発・自己研鑽に努め、自己管理能力を身につけた人材を育みます。

(3) 知識社会に因應する能力の醸成

私たち山口大学は、地域社会および国際社会の発展と平和の実現に貢献するために、21世紀の知識社会における課題探求と問題解決の能力を持った人材を育みます。

【研究の目標】

(1) 先進的な研究を社会に還元

私たち山口大学は、基礎的・学術的研究および社会が直面する課題の克服と解決に役立つ研究を重視し、総合大学の特性を活かし、先進的かつ長期的な視野に立った研究を進め、その成果を社会に還元します。

(2) 学際的な研究体制の構築

私たち山口大学は、人文科学、社会科学、自然科学、生命科学などの学問分野の独自性を尊重しながら、これら諸分野の連携を通して、21世紀の時代にふさわしい学際的な研究体制を構築します。

(3) 研究活動の透明性と説明責任の遵守

私たち山口大学は、研究者相互の交流を基盤に、山口大学を主体とする共同研究体制を構築します。その研究過程と研究成果は広く社会に発信し、説明責任を果たします。

【私たちの責務】

(1) 新たな価値の創出

私たち山口大学は、人間と人間、人間と自然、人間と科学とが調和する新たな価値の創出をめざします。

(2) 社会が抱える問題解決への寄与

私たち山口大学は、20世紀の時代が繁栄と豊かさをもたらす一方で、自然環境の破壊や貧困・飢餓・戦争など、多くの社会問題が表出した時代であったことを認識し、21世紀の今日にあっては、これらの矛盾の解決のために英知と勇気を役立てます。

(3) 地域社会の発展と国際社会への貢献

私たち山口大学は、心豊かな教養人と優れた専門的知識・技術を持った人材を育み、地域社会の発展と国際社会の平和に貢献し、人類の幸福に寄与します。

2 学士課程の目的

上記本学の理念及び目的の下、各学部規則に次のように定めている。

(人文学部)

本学部は、人間及び社会の営み並びに文化の本質を理解することにより、豊かな人間性を持ち、自らの課題を発見・探求し、それを的確に表現できる人材を育成することを目的とする。

(教育学部)

本学部は、理論と実践の融合による人間育成という教育理念のもと、幅広い教養及び教育に関わる諸課題に対する教育研究を通して、教育に関する専門的理論と実践的指導力を兼ね備えた教員を養成することを目的とする。

(経済学部)

本学部は、自ら問いを見だし、解決の方策を探求する能力及び意欲を持ち、世界及び社会に貢献し得る実践的経済人を育成することを目的とする。

(理学部)

本学部は、自然科学諸分野の教育研究を通して、幅広い教養及び自然科学分野の専門知識を修得し、論理的思考力及び柔軟な発想力を持ち、広い視点をもって、社会で活躍できる人材を育成することを目的とする。

(医学部)

本学部は、医学・医療の専門的知識及び技術の教授並びに豊かな人間性を涵養する教育を行い、人類の健康の増進に資する研究を推進し、社会・時代のニーズに応える高度な知識及び技量を「発見し」、「はぐくみ」、「かたちにする」人材を育成することを目的とする。

(工学部)

本学部は、学際的な教養並びに地球環境及び生産物に対する倫理観を持つ人材を育て、国際的に通用す

る技術者として社会に送り出すことを目的とする。

(農学部)

本学部は、人類の生存を支える安全な食料の効率的生産、生態環境の保全及び生物資源の機能開発のための高度な教育を行い、先端的研究を通じて、地域及び社会の発展に寄与するとともに、国際的に活躍できる人材を育成することを目的とする。

(共同獣医学部)

本学部は、国際水準の獣医学教育を体系的に創出・実践するとともに、深い知識と高度な技術を備えた専門性の高い獣医師を養成することを目的とする。

(国際総合科学部)

本学部は、現代及び近未来社会が直面する複合的で解決困難な科学技術が関与した諸問題に対し、科学技術及び国際社会に関する複眼的・総合的な理解・洞察に基づき、主体的・能動的に働きかけ、課題を適切に設定し、他者と協力して粘り強く探求し、解決策を提示できる人材を養成することを目的とする。

3 大学院課程の目的

上記本学の理念及び目的の下、各研究科規則に次のように定めている。

(人文科学研究科)

人文科学研究科は、人文科学全域及び専攻分野の研究を深化させ、高度専門職業を担うにふさわしい学識の涵養を目的とする。

(教育学研究科)

研究科の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 学校及び地域における教育課題に応じて、高い資質を有する学校教員及び地域社会の教育文化に貢献できる人材を育成する。
- (2) 学校及び地域社会の研究拠点として、関連諸科学と連携した統合的な教育文化の発展に貢献する。
- (3) 学術・教育・文化の交流拠点として、教育資源を広く地域に向けて開放し、地域社会の発展に寄与する。

(経済学研究科)

経済学研究科は、経済、経営、法律、観光等の社会科学の分野における高水準の教育研究を行うとともに、当該分野の高度専門職業人を養成することを目的とする。

(医学系研究科)

本研究科は、医学・生命科学領域において、時代にあった社会のニーズに対応するため、専門的な知識・技術並びに豊かな人間性及び高度な倫理観を培うとともに、学際的連携を通して健康の増進及び医学・生命科学の発展に世界的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(理工学研究科)

本研究科は、理学及び工学の専攻分野における高度な教育研究を行い、当該分野の高度専門職業人を養成することを目的とする。

(農学研究科)

農学研究科は、総合的な基礎力に基づいた高度な専門知識と能力を備えた、豊かな人間性を持つ研究者、技術者を養成することを目的とするとともに、生物機能の開発・応用に関する技術を発展させつつ、各種資源と自然環境の保全・再生との調和を図り、豊かな社会の形成に貢献することを目的とする。

(東アジア研究科)

研究科は、東アジアを深く理解し敬愛する指導的・高度専門職業人を養成することを目的とする。

(技術経営研究科〔専門職大学院課程〕)

本研究科は、科学技術及び企業経営の普遍的原理並びに最新の知識を統合し、イノベーションを持続的に創出するためのマネジメントの研究を行い、もって総合的・学際的な知識・教養・倫理観に立脚し、自身の課題並びに地域及び地球規模での資源の最適利用を考え、判断する能力を持つ人材を養成することを目的とする。

(連合獣医学研究科)

研究科は、獣医学に関する高度の専門的能力と豊かな学識を備え、かつ、柔軟な思考力と広い視野を持って、社会の多様な方面で活躍できる高級技術者及び独創的な研究をなし得る研究者を養成することにより、学術の進歩及び社会の発展に寄与することを目的とする。

iii 選択評価事項に係る目的（対象大学から提出された自己評価書から転載）

選択評価事項B「地域貢献活動の状況」に係る目的

（1）「山口大学憲章」及び「明日の山口大学ビジョン」における本学の地域貢献の位置付け

本学では、平成 19 年 2 月に「山口大学憲章」を策定して、「私たち山口大学は、心豊かな教養人と優れた専門的知識・技術を持った人材を育み、地域社会の発展と国際社会の平和に貢献し、人類の幸福に寄与します」と掲げ、地域社会の発展と国際社会へ貢献することを責務として明記している。また、平成 20 年 2 月に、山口大学憲章の基本理念に基づき、平成 32 年(2020 年)における本学の目指すべき将来像として、「教育」、「研究」及び「社会連携」の視点から、「明日の山口大学ビジョン」を策定した。「明日の山口大学ビジョン」においては、社会連携等に関する中・長期目標として「山口大学は、資質の高い教員や優れた医療人材など、様々な社会で活躍できる人材の養成・育成に加え、研究における国際連携の強化、先進医療の地域への提供、生涯学習及び産学連携など、教育、研究、医療、文化及び経済の各方面から、地域社会や国際社会との連携を軸に据えた活動を発展させていきます。本学は、地域の基幹総合大学として、また、アジア・太平洋圏において独自の特徴を持つ大学に進化することにより、教育・研究の成果を広く社会に提供するとともに、地域社会や国際社会との連携をかたちにし、社会の発展に寄与します」と方向性を示すとともに、具体の活動目標を次のとおり定めている。

【地域の教育・文化の発展への寄与】

- ・本学の地域課題に関する教育研究機能を生かし、教育・文化、医療・福祉、生活・環境、防災・安全、及び各種の地域政策や産業などの分野で、様々な取り組みを行う地域の諸団体と連携して、地域の期待に応える連携事業を進める大学としてさらに力を尽くします。
- ・公開講座及び開放授業等の実施・拡大、地域の諸団体と共催するフォーラムの開催などを通じて、地域住民が抱く大学との距離感をさらに縮め地域の中で存在感がある大学としてその連携活動を強化します。
- ・すでに実施している県や市町村などの地方自治体との包括的な連携協定、公設試験研究機関との組織的な連携協定を一層発展させ、ゆるやかな連携の枠を越えた人材交流機会の増大、互いの管理する施設・設備の相互運用の拡大などを実現し、高い水準の連携事業を展開します。
- ・大学の教育研究機能を生かして行う地域研究に関する連携事業、大学教員のもつ高度な専門知識の提供、地域の初等・中等教育を巡る諸課題への対応、地域社会に参画するための学生の自主活動への積極支援などを通じ、大学の教職員・学生と地域との“共有”を進めていきます。

【研究連携と地域イノベーションの推進】

- ・人文・社会科学分野における地域の歴史研究、文化研究、経済研究などの成果、理工学分野における地域の自然研究、防災、インフラ整備と保守、環境の保全・復元、医学・保健学分野における地域中核医療の提供、住民の健康増進、農・獣医学分野における農林水産業の再生、食の安全、高度獣医療の提供など、様々な研究連携をさらに推し進めていきます。
- ・地域イノベーションの推進のため、大学におけるプラットフォーム機能を強化し、研究成果を地域産業界で活用することにより、産学連携を強化していきます。

【地域医療の充実】

- ・卒前・卒後・生涯教育を通じ、質の高い医療従事者の育成や地域医療を支える人材を育成します。
- ・中国地方の中核医療拠点として難治性疾患の治療や QOL (Quality of Life) 向上のための先進医療を提供します。
- ・高度救命救急医療、がん治療、生活習慣病の予防・治療などの拠点として、地域医療に貢献します。

【高度獣医療の提供】

- ・動物医療センターを中心に、西日本における拠点二次診療施設として、脳神経疾患や腫瘍性疾患などの分野における高度獣医療を提供します。

【社会連携及び国際化のための組織・体制の充実】

- ・地方公共団体との連携により、地域再生に貢献するとともに、社会のニーズと大学のシーズの適合を目指し、地域貢献・社会連携及び国際化のための拠点形成と、組織・体制の充実を図ります。
- ・民間企業や公益法人等との連携を推し進め、「国際協力の里」ネットワークを実質化して、開発途上国に対して先端技術や伝統技術等を提供する場を構築するとともに、国際協力事業を積極的に行います。
- ・「大学コンソーシアムやまぐち」の中心的役割を担う機関として、コンソーシアムが取り組む活動を積極的に支援します。

山口大学

iv 自己評価書等

対象大学から提出された自己評価書本文については、機構ウェブサイト（評価事業）に掲載しておりますのでご参照下さい。

機構ウェブサイト <http://www.niad.ac.jp/>

自己評価書 http://www.niad.ac.jp/sub_hyouka/ninsyou/hyoukahou201603/sentaku/no6_1_1_jiko_yamaguchi-u_d_s201603.pdf